

学校給食センターの建設場所について

問 山田の学校給食センターについて、当初予定場所と違う場所にできた事について、知りたい。

答（給食センター）当初、土佐山田学校給食センター建設等検討委員会で3候補地を決定しました。

その後、用地交渉、現地調査の結果全ての候補地の建設が困難であることが判明したため、市建設課、市議、建設検討委員会から紹介のあった7候補地を調査検討の結果、現在の場所での建設を決定しました。



▲土佐山田学校給食センター（北本町2丁目）

介護施設の今後について知りたい

問 今後、団塊の世代が要介護の状態になってくる事も考えられるが、香美市の介護施設のあり様を聞きたい。

答（健康介護支援課）香美市で介護保険の認定を受けている方は65歳以上で約20%、サービス利用者はそのうち76・8%ほどです。

4月1日現在で65歳以上の人口は1万176人で、その約20%にあたる2054人が介護保険認定を受けており、そのうち介護保険を利用してゐるのは、1577人（76・8%で計算）です。介護保険適用施設の利用者は、令和4年2月分で、510人となっており、介護保険利用者の約30%の方が、自宅以外で暮らしているということになります。

香美市の人口の推移と将来推計から見ると、老年人口は2015年をピークに徐々に減少傾向ですが、75歳以上の後期高齢者は、増加傾向のため、今後も利用者は増える見通しとなっています。

香美市では、第8期介護保険事業計画の中で、今年度、小規模多機能型居宅介護施設と認知症高齢者向けグループホームを公募する予定です。特定施設入居者生活介護（ケアハウス）も増床の予定があると聞いています。

実際に施設が足りるかどうかという問題もあるかと思いますが、できるだけ住み慣れた地域での生活が継続できるよう介護サービスの基盤整備を進めていく予定です。

住み慣れた自宅で最期を迎えたいと望む人も増えてきていると思いますので、在宅医療と介護の連携にも力を入れ、これからは施設だけに頼るのではなく、支援が必要な高齢者やその家族がサービスを選択し、安心して利用でき、可能な限り住み慣れた地域での生活が継続できるよう、サービス基盤の整備と質の向上、介護給付適正化事業（必要なサービスを過不足なく提供することを旨とする）の推進に努めていきたいと思っています。

投票所の閉鎖時刻の繰り上げを

問 選挙投票所の閉鎖時刻を早めることはできないか。

また、部落の高齢化に伴い、地区で4名の人数がなかなか構えられないので、投票所を近隣部落と統合できないか。

答（選挙管理委員会）投票所の閉鎖時刻の繰り上げについては、高知県選挙管理委員会を通じて、総務省に照会しましたが承認されなかったため、投票所の閉鎖時刻の繰り上げが出来ませんでした。

この結果をうけ、現時点では各投票所での投票時間の変更はできませんが、今後も粘り強く要望していきたいと考えています。

投票所の統合について、統合に関する調整がまとまった箇所から順次、統合を進めており、平成30年からの4年間で7箇所を統合しました。しかしながら、一部の地区では統合を希望する地区と、それを受け入れる地区の間で話がまとまらず、破談になった事例が出



▲生涯野コミュニティセンター（香北町）

てきています。

統合にあたっては、①どの投票所と統合するのか、②統合後の投票所における必要人員の割り振り（例えばA地区から3人、B地区から1人）について、あらかじめ、関係自治会で協議をしていただくことが大変重要であると考えます。必要とあれば、協議の場に選挙管理委員会が出向くことも可能ですので、お気軽にお声がけください。

行政連絡会、自治会長会等の会合を足掛かりに各自治会で協議を進めていただければ幸いです。

木材価格の価値を高める施策を

問 山林の多い香美市において、公共施設への優先活用など、木材価格の価値を高める施策を行ってもらえないか。

答（農林課）対策の一つとして市産材を利用して建築された住宅に対し補助金を交付する『木材住宅支援事業』を実施しています。令和3年度は16件の申請がありました。

情報通信技術の活用により、林業や木材産業を取り巻く環境は大きく変わっています。生産者である川上と消費者である川下を、加工流通業である川中がつなぎ、流通全体で効率化を図るサプライチェーン（※）の構築等意欲のある事業者からの申し出があった場合には、県や木材協会、地域関係者とも連携しながら、検討をすすめていきたいと考えています。

公共施設への優先使用については、当市では『香美市公共建築物等木材利用促進方針』を定めて、公共建



築物の構造の木造化や内外装、設備・備品類等の木質化を推進しています。また、木材を利用する際は、地域産材の使用を原則としています。

令和3年度は消防署香北分署の木質化、図書館香北分館および楠目小学校への木製備品（書架、下駄箱等）の導入を実施しました。令和4年度は新図書館の木質化や木製備品の導入、消防屯所（大栃分団）の木質化を予定しています。

※サプライチェーン・・・製品の原材料・部品の調達から販売までの一連の流れ、経済活動

違法ごみ減少への取り組みについて

問 ゴミ収集ステーションに出される違反ごみへの対応は、各地区共通の悩みだと思ふので、収集スタッフに警告ステッカーを貼ることで、多い事例を示すなど、分かりやすく広報できないか。

答（環境課）ごみ収集ステーションに残っている、分別違反による取り残しごみは、依然として問題となっています。環境課としても『ごみ分別の手引き』の配布をはじめ、地域からの要望に応じて、ごみ収集ステーションへの注意喚起の貼り紙を作成し、渡しておりますが、問題解決には至らないケースが多くあります。

日々のごみ収集の中で、警告ステッカーを貼られた分別違反ごみの主なものは、次のとおりです。

◆可燃ごみに、金属類・ビン類・陶器類等の、明らかに燃やせないごみが混入している。

◆ペットボトルにラベルやキャップを付けたまま、分別せずに出している。

◆飲料用のカン・ビン・ペットボトルを分別せず、1枚のごみ袋で出している。

◆汚れた物や中身のある物（食べ残し・飲み残し・使いかけ）を、中身を出さずに出している。

◆ペットボトルに『プラスチック製容器包装』が混入している。

◆『プラスチック製容器包装』と『その他の不燃物』のプラスチック製品が混入している。

◆『資源・不燃ごみ用指定袋（大）』は、ペットボトル・プラスチック製容器包装・衣類しか入れることができないう専用袋となっているが、これら以外の大きめの家電製品や、その他の不燃物を入れて出している。

『ごみ分別の手引き』を見ていただき、ごみの出し方がわからない場合には環境課にお問い合わせいただくなど、正しく分別してください。

また、地域の中でも話題にしていたとき、捨て方や分別方法などを分かっている方が、周りの方に伝えていただければと思います。

地籍調査の進捗状況と今後の計画は

問 地籍調査の現状進捗状況と今後の計画を聞く。また、計画通り進んでいるのか否か。もし進んでいないのであれば、その原因は何か。

答（建設課）地籍調査については、現在、年間予算ベースで約1億円、職員7名体制で実施しており、国で定められた『10カ年計画』（現在は令和2年から令和11年）により進めており、概ね計画どおりとなっています。

今後、国からの補助金の減額や実施単価の高騰もあることから、予定どおりの計画となるかが課題です。



▲物部町大栃周辺